

令和5年度 江戸川区立一之江第二小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

| | | | |
|-------------------|--|--|---|
| 学校教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・よく考え、進んで学習する子ども ・思いやりがあり、助け合う子ども ・体力のある、元気な子ども | <ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる学校 ・自ら学び、自ら考える子ども ・「子ども」「授業」「研修」「人の和」を大切に。 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <成果>・全教員が協働し、児童の健全育成にあたった。全校体制で「あいさつ励行」に取り組むことによって成果を上げることができた。 ・学年をこえて、一之江二小マナー、学習の約束を基に、学習スタイルの統一を図ることによって、成果をあげることができた。 <課題>・ミライシード(ドリルパーク)を活用した学力向上の取り組みの充実を図る。 ・一人一端末を用いたICTを効果的に活用した授業展開の充実を図る。 | | |

| 教育委員会重点課題 | <取組項目>・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 年度末に向けた改善策 |
|-------------------|---|--|---|------|----|-------|---------|------|------------|
| | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | <学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①東京ベーシックドリル診断テストの実施 ②東京ベーシックドリルの診断テストの結果を基にしたドリルパーク(ベーシックドリル)の活用 ③家庭学習週間(江戸川っ子study week)を設定することによって家庭における学習習慣の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①各学期の始めと終わり、年間6回の診断テスト実施。 ②年度末実施の診断テストの正答率、85%超えを目指す。 ③ドリルパークを活用し、7日間×3回(毎学期一回)の日程で家庭学習週間(江戸川っ子study week!)を実施する。 | | | | | | |
| | <読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①学校図書館を活用した探究的な学習を実施する。 ②地域図書館からの団体貸出しを実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①各学年学期に1回程度、探究的な学習を行う。その際、より充実した学習活動になるよう、題材に適した図書資料を可書が選定を行う。 ②低学年で月に1回、地域図書館からの団体貸出しを行う。様々な読み物に触れて、文章への興味関心を高める。 | | | | | | |
| 体力の向上 | <運動意欲や基礎体力の向上> ・児童の運動機会の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ①「いちにピック」を設定し、いろいろな運動に取り組む機会をつくる。 ②なわとび週間や持久走週間を設定して体力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①毎週金曜日を「いちにピック」と設定し、年間を通して全児童が様々な運動に取り組めるようにする。 ②それぞれ2週間に渡ってなわとびや持久走に取り組む。持久走については、持久走週間終了後、記録会を行う。 | | | | | | |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | <特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①特別支援全体会で児童の情報共有を行う。昨年度からの引継ぎも基にして、指導や声掛けの共通理解を図る。 ②エンカレッジルームの活用について、共通理解を図る。担当者を決め、必要に応じて対応する。 ③鹿本学園の担当者、保護者、担任、特別支援コーディネーターが連携を取り、進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ①特別支援全体会を1学期・3学期に行う。日ごろから保護者と連携を取りながら、個人面談等を活用して指導の内容を検討していく。 ②校内委員会等で活用状況について、話し合いを行う。 ③年間1～2回程度の交流ができるように進める。 | | | | | | |
| 子どもたちの健全育成 | <子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ①校内委員会の設置やSSWと連携を図りながら不登校児童へ対応していく。 ②全児童対象の個人面談とは別に、希望される保護者を対象に相談日を設けて、担任と面談する機会をつくる。 ③Hyper-QUの結果について個人面談で話題とし、保護者とも結果を共有していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ①不登校児童や不登校になりそうな児童を発見した際、速やかに校内委員会を開き、必要に応じてSCやSSWにつなげていく。 ②毎学期1回の保護者相談日の設定によって、希望する保護者と、子供について話し合う機会を設ける。 ③12月の個人面談で、Hyper-QUの結果を保護者と共有する。 | | | | | | |
| 地域に広く開かれた学校(園)の実現 | <自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①全学級による学校日記の定期的な更新 ②給食メニューのホームページアップ ③学校公開では、参観制限なしで全学級の授業を参観できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ①全学年が毎週1回は、学校記録を更新するようにして学校で教育活動を紹介し、ホームページを充実させる。 ②毎日、給食のメニューを学校日記にあげていく。 ③年間4回、5日間の学校公開では、全保護者が全ての学級の授業を自由に参観できる形をとっていく。 | | | | | | |
| | <学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ①保護者評価の実施 ②学校関係者評価の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ①年一回(11月)実施 → 回答率60%以上 ②年三回実施 | | | | | | |
| 特色ある教育の展開 | <一部教科担任制の推進> | <ul style="list-style-type: none"> ①3年生以上による一部教科担任制 ②低学年による交換授業 | <ul style="list-style-type: none"> ①高学年は、社会、理科、算数、国語を教科担任制により分担して指導する。 ②一単元を担当している以外の学級で指導する。 | | | | | | |
| | <「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施> | <ul style="list-style-type: none"> ①会議の精選 ②一層のペーパーレス化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ①夕会⇒週1回 生活指導夕会⇒週1回 職員会議(年間8回) ②学校便り、保健便りのデジタル配信 | | | | | | |